

石 仏 散 歩

すとーん・さーくる

No.110

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2021年3月20日 発行

事務局 T945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一

電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

仏路峠（ほとけぢとうげ）の石仏群

新潟市 永 野 英

新潟市秋葉区矢代田から、五泉市橋田にぬける山路に仏路峠はある。ここは五泉西三山のうち、最も新津側に近い菩提寺山（248.1m）の頂上すぐ下の標高220m付近を通る峠である。市街地に近い山だから半日で十分登山して帰ることが出来る。

両市とも市民の健康のため、山路を整備し林道を通して、安全に登山を楽しめる。その山路整備のとき、あちらこちらに有った石仏を、菩提寺山頂への分岐のところへ集めたのがこの石仏群である。特に変わったもの珍しいものではなく、小さな地蔵様が多い。

ところがだいぶ離れて一石だけ旧道の通りに、湯殿山石塔がある。大きすぎて動かせなかつたものかも知れぬが、その向きが変である。山や野の湯殿山・月山などの石仏の字の向きは正確ではないにしろ、山形県の月山方面を向いているのが多いが、この字は全く真逆の西の面に彫られている。山道の通りとも90度違っている。これでは西から登ってきた人は正面からでよくわかるが、下ってきた人はなんだか頭が大きく欠けている石にしか見えない。横を通るときもわからない。



湯殿山塔



仏路峠の石仏群

諦めたのか、何かほかに訳があったのか、そんなことをいろいろ思いめぐらすのも古い石仏探訪の楽しいところである。



荒浜諏訪神社の親子狛犬

中越地区見学会

北国浜街道の寺社と
石仏を歩く

柏崎市 伊比卓郎

昨年の新型ウイルスコロナ禍で中止や延期の末、令和二年度初めての見学会が好天の九月二十九日に実施された。参加一八名。

今回は上越地区から引き継いで北国街道を北上し、柏崎から椎谷岬まで巡った。

午前は悪田稻荷神社、松波諏訪神社で小林群鳳の狛犬、小川由廣の双龍鳥居、獅子像（阿吽形）など昔の石工の技量に迫力を

を感じ、荒浜諏訪神社では親子狛犬にほんわかと気持ち良くなつた。

刈羽村宝蔵寺は真言宗豊山派の寺で高田上杉家に關係し由緒あり、十六世紀頃の石五輪塔や近くの勝山城に散在していた庚申を集めた百庚申など歴史を感じた。

午後は年初めに伝統の御弓始祭りが行われる西山の二田物部神社を見学。柏原さんの弥彦神社との関連の話を聞き納得。

山越えをした椎谷岬の椎谷観音堂では「今年は住職一代に一回しか行えない椎谷観音御開帳を計画したがコロナで延期とな

った。おかげで御堂の改修が出来ない」と住職がボヤキの挨拶をされ、日本海の岬の先まで及んだコロナ禍の影響を思い知った。最後に日本海へ鯨が漂着したことの証の鯨供養塔のある薄暗い杉木立に囲まれた宮川神社を拝観して帰路についた。

コロナ禍が早く收まり令和三年の石仏の会のイベントが滞りなく実行出来ることを祈つて拙筆を終えます。



松波諏訪神社の双龍鳥居（小川由廣作）



刈羽村・宝蔵寺前で（小林はマスク姿）



写真1. 知足庵の中世仏

十月十六日の見学会は関川村を中心を探訪してきました。私を含め参加一八名でした。先ず向かったのは、大島の「知足庵」です。中世仏は楕円形のかわいらしいお顔に蓮華坐を組み、弥陀定印を結んでいます。用水ぐみ上げの堀を掘ったときに出土したそうです。地中の鉄分が多かったのか、赤銅色に染まっています（写真1）。

高田の觀音堂境内の雷権現塔などと一緒に、金毘羅大権現があつて、こんなところ

米沢街道を歩く

—下越・新潟地区見学会に
参加して—

寄稿 新潟市 野尻桂子

米沢街道は会津から米沢に続く道です。

十日十六日の見学会は関川村を中心を探訪してきました。私を含め参加一八名でした。先ず向かったのは、大島の「知足庵」です。中世仏は楕円形のかわいらしいお顔に蓮華坐を組み、弥陀定印を結んでいます。用水ぐみ上げの堀を掘ったときに出土したそうです。地中の鉄分が多かったのか、赤銅色に染まっています（写真1）。

高田の觀音堂境内の雷権現塔などと一緒に、金毘羅大権現があつて、こんなところ



写真3. 弾丸の石塔？



写真2. 杉王大権現に並ぶ石仏群

に海の神様？と思いましたが、渡邊三四一さんから農村部では農作物の神様（水神）として祀っているという話を聞いておもしろいと思いました。

鷹の巣峠に到る旧街道取付け口を道から脇にちょっと登つたところに、庚申塔や馬頭觀音などがずらりと並んだ石塔群を見ました。すべて文字のみの石塔です。

続いて向かったのは、杉王大権現（上関）の石造仏群です。飯豊山塔、馬頭觀音、庚申塔、大黒天、湯殿山塔と文字のみの石塔がずらっと並んでいます（写真2）。初心者の感想ですが、流行の神様を集めた感じでおもしろいです。ここでちょっと面白い石仏がありました。文字が摩耗して不明でしたが、脇に昭和二十年四月という字が読めました。それで、これは弾丸の形なのに違いかという意見があり、推測ではあります。なるほどそういうものもあるのかと思いました（写真3）。

お昼は関川の渡邊家の分家の東桂苑にて、密にならないよう、大広間で離れて座つて、ちょっと豪華なお弁当をいただきました。残念ながら時間の関係で、映画「峠」の撮影にも使われた渡邊邸は見学できませんでした。

午後からは大蛇伝説の伝わる大藏神社を

参拝し、最後に辰田新の道祖神では男根型の自然石を見学して終了でした。

村のそこかしこに石塔があり、お地蔵さんに孫や子どもの名前を付けた前掛けを幾重にも着せたりと、まだまだ生活の中に信仰が活かされているのだと感じました。

初心者ゆえ、感想文のような報告ですが、ご容赦ください。星さんの解説をはじめ、皆様にいろいろ教えていただきながら、お天気にも恵まれ、熊にも遇わらず、楽しい見学会でした。ありがとうございました。



大藏神社にて



開山の修那羅大天武像

有志日帰り見学会「靈場・修那羅山と筑北村の石仏を歩く」が令和二年（二〇二〇）十月二十八日（水）に行われた。修那羅山は、長野県筑北村の標高一〇〇〇メートル余に位置する。この山は越後ゆかりの靈場で、越後国頸城郡大鹿村（現妙高市）に生まれた修那羅大天武が寛政七年（一七九五）に開いたと伝えられる。地元では「しょならさま」や「しょならさん」の名で親しまれ、ここに約八〇〇基の不思議な石神仏たちが祀られている。

切れ長でつりあががつた目の風神像、とぼけた顔の馬に乗る勇ましい武人の姿を彫った馬上神（騎馬武者像）など、どれひとつとっても初めて見る石仏ばかりである。その自由奔放で、儀軌を逸脱した異形の像容は「修那羅調」といわれ、他に類を見ない独特な世界観を生み出している。

いちばん度肝を抜かれたのは修那羅山にある「眼大楽大神」という文字碑である。今回の見学記の執筆がわたしに回ってきたのも、この謎の文字碑との出会いが因縁にあるに違いない。眼の病が楽になるように、眼病平癒を祈願した石神であろう。碑文は「めおおらくのおおかみ」と読むのであるか。自由奔放な修那羅調にならって、わたしだけは「めだいらくのおおかみ」と読んでおきたい。そう思い込んだ方がきっとご利益があるはずだ。数多ある石仏の中でも、この石神だけには丁重に合掌礼拝し、修那羅山の石仏見学を時間いっぱい楽しんだ。

このほかにも善光寺街道の宿場であった青柳宿では、石垣の下を通る水路や、岩の



「眼大楽大神」碑



馬上神



風神

中央をノミで掘った大切通しなどを見学した。秋は新そばの季節であり、もちろん昼は信州名物の手打ちそばを堪能した。まちを歩きながら石仏を見て、その土地の味を楽しむというのが見学会の醍醐味である。少しずつではあるが、本来の会の活動ができる心地よさを身にしみて感じた見学会であり、その開催にむけて尽力なさった事務局はじめ関係者の方々には深謝の意を表したい。

なお、会の歴史を振り返ると、修那羅山への訪問は二回目という。平成十四年（二〇〇二）九月に初代会長の故・阿部茂雄先生を先達として、「修那羅山・靈諱山・万治の石仏見学会」が行われている。そのときの案内に目を通すと「10周年特別企画石仏の常識を変える旅へ」と謳い文句が付されている。時は経ても、その言葉の意味を失っていない今回の旅であった。参加一九名。



大切通しにて



異形の石像たち

事務局だより



◆第24回「石仏フォーラム」を開催

十一月十五日（日）、長岡中央図書館（講堂）において「石仏フォーラム」が開催されました。コロナ禍の中、三〇名（会員一七名、一般一三名）の参加でした。以下、概要を報告します。

第一部（十時～十二時）の公開講演会では、青柳保子さん（長岡民話の会会長）より「昔話の中の石仏」と題し、ご講演いただきました。青柳さんは本来中止となつた総会での講師を依頼していましたが、日程をずらしてご登壇いただきました。

話の合間に石仏の登場する昔話を挟んでの講演で、昔話と石仏との深い関係性を改めて教えられました。講演の結びに示された次の言葉は特に印象深いもので、レジュメから引用しておきます。

石仏や昔話は、日々の暮らしが物語や謂れに満ちた世界で生きて、その機能を果たしていた。

また物語や謂れには石棒の時代から今まで、人々の心に浮かんだ願いや事象の納得の形が残されている。石仏が石で作った心の形であるなら、民話は言葉でできた心の遺跡と言えよう。

第二部（十三時十分～十五時）は会員による調査研究報告で、①北国浜街道の寺社と石仏を歩く―中越地区見学会報告（柏崎市・伊比卓郎氏）、②私の石仏探訪の原点（見附市・宮島秀一氏）、③修那羅山と筑北村の石仏を歩く―有志日帰り見学会報告（参加者有志）の発表がありました。

宮島氏は、なぜ石仏に魅かれるのかを、ご自身の成長過程で出会った石仏を振り返りながら「原風景としての石仏」を紹介され興味深い発表でした。

第三部の懇談会の後、閉会となりました。



発表の宮島秀一氏



講師の青柳保子さん

◆令和3年度総会のご案内（予報）

昨年はコロナ禍で書面承認となりました
が、今年度は左記のとおりゆつたりとした
会場での開催を計画しています。ぜひご参
加ください。詳細は改めてお知らせします。

日 時 五月十六日（日）

十三時～十六時三十分

会 場 長岡市民協働センター

第一部 公開講演会（十三時～）
講師検討中

第二部 総会（十四時四十分～）
令和2年度事業報告・決算報告

令和3年度事業計画・予算案
その他

第三部 懇談会（十六時～）
※懇親会は差し控えます。

お願い 今年度の会費未納の方には振替用紙を同封しました。至急納入願います。

編集後記

コロナ禍の中、事務局を引き継いだ最初の年でしたが、おかげさまで無事終えることができそうです。令和三年、せめて平常な生活に戻る事ができますように願っています。

（下越・新潟地区事務局 堀内 正子）